

## 新人学芸員からのごあいさつ

半田 宏伸

はじめまして、今年度4月から自然の博物館に勤務しております半田宏伸（はんだひろのぶ）と申します。

無脊椎動物分野の担当で、特にハチの仲間の研究をしています。

### 自己紹介

小学生のころから昆虫が大好きで、夏休みにはカブトムシやクワガタムシのようなカッコいい昆虫を採集したりする日々を過ごしていました。そして虫好きのまま成長しました。大学では昆虫学研究室に所属し、虫好きの集団の中で過ごしてきました。研究室に所属するまでは図鑑で見られる程度にしか昆虫を知らなかった私でしたが、所属以降、図鑑等では決して知ることはできないような昆虫の面白さ、魅力を体験することができました。私はそんな中でも、刺すイメージが強く近づくことすら躊躇していた「ハチ」の仲間に興味を持ち、活動をしてきました。

### 学生時代—研究について—

大学時代はハチ類の地域昆虫相の調査や「寄生蜂」と呼ばれる他の昆虫等に寄生するハチの仲間について研究してきました。寄生蜂については体長が3mm以下の小型のハチを扱ってきました。

ハチの仲間は日本国内で4000種以上が知られ、多くは腹部に「針」をもっています。そのため「毒針で刺してくる危ないやつ」というイメージが一般的です。しかし、その針を武器として利用しているのはスズメバチやミツバチの仲間が集団生活するグループのみなのです。多くのグループは産卵のために使います。とくに寄生蜂は、寄主となる昆虫に針を刺し、麻酔をして卵を体内に産み付けます。寄生の手段もグループや寄生する相手によって様々です。私はそんな寄生蜂の中で水田にいる「クロハラカマバチ」（図1）という寄生蜂の寄生率、雌雄比はどれくらいか、「クロハラカマバチ」がどんなハチに寄生されるのか（寄生蜂にさらに寄生するハチ類を高次寄生蜂といいます）（図2）といった、ハチ類の寄生戦略について研究していました。

### 学生時代—研究室活動について—

私が所属していた研究室では毎年、様々な展示会、観察会等の教育普及活動を行っていました。私はそういった活動に参加し、図鑑だけではわからないような昆虫の魅力を知っていただく活動をしてきました。

昆虫は非常に身近な生き物であり、昆虫の面白さを伝えていくことは、人々の自然科学への興味・関心につながる第一歩になると考えています。

### 最後に

私はフィールドで昆虫採集すること、見栄えのするきれいな標本を作ることが好きなので、積極的に博物館資料の充実、展示活動に努めていきたいと思います。また、学生時代の教育普及活動の経験も活かし、昆虫（特にハチ類）を中心に自然の魅力を発信していきたいと思います。また、ハチ以外にも昆虫全般が大好きなので、「こんな虫見つけたよ」というようなことがありましたら、ぜひ教えてください。

昆虫の世界はまだまだ分からないことばかりで、私自身勉強中の身ではありますが、多くの人に昆虫の魅力が伝えられるよう努力していきたいと考えておりますので、今後ともよろしく願いいたします。

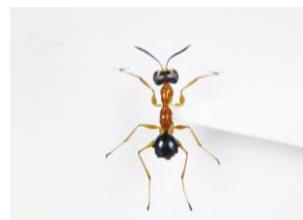


図1. 一次寄生蜂  
クロハラカマバチ



図2. 高次寄生蜂  
*Helegonatopus dimorphus*

（はんだ ひろのぶ・学芸員）